

### 1. 首都近郊のケンスコフ地域で女性の地位向上イベントが実施されました。



先日、COVID19 予防対策資機材を配布した首都近郊のケンスコフ地域の婦人会からの招待で女性の地位向上イベントに JICA ハイテから山本支所長が参加しました。国際女性デーである3月8日から1か月ほど遅れ、4月10日に首都近郊の婦人会 (FAFAK) が地域の女性を集め、女性の地位向上をテーマに会合を実施しました。会合には地域の女子学生や婦人方、約100名が出席し、家庭における育児や家事を夫と分担するべきであるという主張や女子が教育を受ける機会が少ないのではないかという意見などについて討論を繰り広げました。また、会議前後には愛嬌たっぷりのご婦人が歌いながらダンスを披露するなど和やかな雰囲気でも地域の女性たちの良い交流の場となっていました。COVID19 予防対策に関する啓発活動もしっかり取り入れられていました。

### 2. JICA チェアオンライン講義開催

2021年4月28日にハイチ国立大学・計画技術・応用経済学学院 (CTPEA) と協力して JICA チェアオンライン講義が開催されました。ハイチ国立大学の学生は、ハイチのホテル会議室からの参加、他にも日本や中南米諸国および世界各国から約100名の聴衆が ZOOM を通じて日本からの細野先生 (JICA 緒方平和開発研究所 シニア・リサーチ・アドバイザー) の講義を視聴しました。日本の経済発展の経験に基づいた開発研究と他国の開発経験を比較することの重要性や、日本での経済活動組織化の為の5つの手法である“カイゼン”についてもわかりやすく解説され、ハイチ国立大学・計画技術・応用経済学学院 (CTPEA) 学生からは、次回はより詳細に説明を聞きたいとの要望がありました。本件に関しましては、別途、トピックス&イベント情報で紹介予定です。



### 3. 研修員が日本で経験したこと ※JICA の研修員が日本で学んだことや印象に残ったことをシリーズでお伝えします。



ハイチの帰国研修員同窓会 (ABHJA) の会長である Reginald JEAN さんに日本滞在経験を伺いました。

Reginald さんの日本滞在経験 (日本滞在期間: 2011年9月5日~10月28日): 文化的には、日本での生活はハイチとは異なります。ハイチは西洋文化を採用している米国に近いからです。日本人のおもてなし (日本人家族との陽気な一日、家庭訪問、レストランでの夕食、観光地の散策など) に接し、静かな街の佇まいなど、日本が国際的な国であることを感じました。私の日本での研修は、第二次世界大戦後に外国の専門家、特に北米とヨーロッパの技術サービスを利用して日本が再建された「採用と適応」という哲学によって構成され、日本の専門的な知識と開発理念を勉強する良い機会となりました。

